

基本情報						
教科・科目		地理総合（理系クラス）		授業で使用するもの 教科書（帝国書院） 地図帳（帝国書院） 地理総合演習ノート２０２５（啓隆社） 資料集（とうほう） ipad（主にロイロノートにて、演習問題、授業スライドPDFの配布、各種提出物管理に用いる）		
担当者		大網貴之				
評価割合（試験：試験外）		試験：6　試験外：4		中1履修「地理」を引き続く。（ウェゲナー・ケッペン・ウェーバー・ホイットルセー） 定期テスト②・④・⑤100点満点で実施。 試験外評価については、授業で行うアクティビティ、プレゼンテーション、単元テスト等で評価。		
年間を通じて教科で培う力		鍛錬（知識及び技能）		□地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる力		
		理知（思考力・判断力・表現力等）		□地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論し、表現する力。		
		探究・叡智（主体的に学習に取り組む態度）		□地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする力		
学習情報						
月	回	単元（学習）目標	単元目的（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4	4	地理の捉え方 地図や地理情報システム	・「地理」という科目を学ぶ意義を理解する ・身の回りで用いられている地図やGISについて、興味関心を抱き、現実世界をどのように地図という平面に落とし込んでいるのか興味を持って意識するようになる ・Web GISを活用して身の回りの災害リスクを調査・分析し、将来に備え、情報を画一的な視点からではなく、多角的に考察し、表現できる	1.地理という学問の捉え方 2.絶対的位置の表し方と時差 3.地図の歴史と図法 4.GISの特性	・講義（インプット） ・授業後に行う演習問題 ・地理院地図の基本操作（マックブックを用いる）	・単元テスト ・レポート（物件探しから考察する災害リスク）
5	1・5	大気大循環 ケッペンの気候区分	・具体的事項から各地の気候と人々の生活や産業が相互関係にあり、他の気候帯においてもこの抽象的概念のもとに具体を考えることができるようになる。 ・自分で調べた情報をスライドに効果的にまとめ、各担当者が持ち寄った情報をもとに、それぞれの気候がどのようなものなのか、論拠を持ってまとめることができる	1.大気大循環と海流 2.ケッペンの気候区分 3.植生と土壌	・講義（インプット） ・プレゼンテーション（グループ別ジグソー学習）	・単元テスト ・プレゼンテーションの出来 ※評価はルーブリックにて示します
6	3・3	ケッペンの気候区分 大地形	・地形を知することは生活の場の特性を知ること、土地環境の理解だけでなく防災の観点からも地形を見ることができる	1.ウェゲナーの大陸移動説 2.プレートテクトニクス 3.地帯構造の分類 4.大地形	・講義（インプット） ・授業後に行う演習問題 ・Google Earthを用いての鳥瞰	・単元テスト
7	3	小地形	・小地形を学習することによって、身の回りの地形がどのように形成されたのか、外的営力によって今後、その地形がどのように変化するのか、その際に考えられる防災リスクについて考え、将来の自分の選択肢を多角的に見ることができる	5.小地形	・講義（インプット） ・授業後に行う演習問題 ・Google Earthを用いての鳥瞰	・単元テスト ・レポート（大学探しから考察する災害リスク） ※評価はルーブリックにて示します
定期試験② 令和7年 7月9日ー7月11日 範囲）						
9	4	言語と宗教	・宗教が世界の多くの人々の価値観や生活習慣に大きな影響を与えていることから、日本との共通点や相違点に着目し、多様な習慣や価値観などを持っている人々と共存していくことの意義に気づく	1.言語　2.世界宗教　3.民族宗教	・講義（インプット）	・単元テスト
10	5	農業	・普段食べているものにどれくらいの資源が投入されているのか、生産過程（農業）と併せ理解し、SDGsに挙げられているような世界規模の課題に対する多角的な視点をもつ。 ・食糧生産は十分なのに、食糧に困る人が多くいるという事実から、現状行われている企業の取り組みを参考にし、高校生という視点から新たな提案を行うことができる	1.ホイットルセーの農業区分 2.食料問題	・講義（インプット） ・プロジェクト構想	・単元テスト ・プレゼンテーションの出来 ※評価方法はルーブリックに示します
11	4	資源・エネルギー 環境問題	・資源を持つ国と持たざる国の性質から、どのようなことが現代社会において問題となっているのかに興味を持つことができる ・持たざる国は、どのようにして限りあるエネルギーと向き合っているのか、また、資源等に恵まれている国は資源をどのように活用し経済を発展させているのか、加えて持続可能性に乏しいエネルギー資源との関わり方をそれぞれの国が模索しているのかを理解することができる	1.資源・エネルギー 2.発電 3.環境問題	・講義（インプット）	・単元テスト
12	4	西アジア・人口 工業	・工業製品を使う人・作る人のニーズを両立するために、私たちは何ができるのか考え、調査をし論理的に策を講じることができる	4.西アジア地誌と人口 1.ウェーバーの工業立地論 2.日本の工業の立地と交通網の発展	・講義（インプット）	・単元テスト ・プレゼンテーションの出来
12	定期試験④ 令和7年 12月10日ー12月12日 範囲）					
1	4	工業・商業	・工業製品を使う人・作る人のニーズを両立するために、私たちは何ができるのか考え、調査をし、論理的に策を講じることができる	1.商業　2.交通	・プレゼンテーション（多国籍企業調べ） ・講義	・冬休みの課題のグループ内発表
2	8	都市問題 南アフリカ	・都市問題がなぜ起こるのか、歴史的背景から考察し、植民地支配における負の遺産が現代社会にまで引き継がれているということを踏まえて、現代社会の在り方について多角的に考察することができる	1.都市における居住問題 2.具体的事象として南アフリカの居住問題と歴史的背景	・講義（インプット）	・単元テスト
3	定期試験⑤ 令和8年 3月4日ー3月6日 範囲）					